

預託金の平均単価等の平成18年度予算と前年度予算の比較

事業活動収入:再資源化等預託金預り収入

平均単価

	平成17年度 予算	平成17年度 (4月～1月) 実績	平成18年度 予算	平成18年度予算における平均単価の設定について
ASR	約6,300円	6,244円	約6,400円	以下を考慮して平成18年度の平均単価を設定。 継続検査時等預託・引取時預託の台数が減少することに伴い平均単価が比較的高い新車時預託の比率が高まること (平成17年度予算比率想定14% 平成18年度予算比率想定21%)。 継続検査時等預託において、貨物車の預託が終息に向かい平均単価が比較的高い乗用車の預託台数比率が高まる ことを想定すること(平成17年度予算比率想定69% 平成18年度予算比率想定84%)。 引取時預託の平成17年度実績が当初想定を下回る平均単価で推移していること。
エアバッグ類	約2,200円	2,240円	約2,300円	
フロン類	約2,100円	2,101円	約2,100円	
合計	約10,600円	10,585円	約10,800円	

装備率

	平成17年度 予算	平成17年度 (4月～1月) 実績	平成18年度 予算	平成18年度予算における装備率の設定について
エアバッグ類	59%	60%	72%	以下を考慮して平成18年度の装備率を設定。 継続検査時等預託・引取時預託の台数が減少することに伴い装備率が比較的高い新車時預託の比率が高まること。 継続検査時等預託において、最近の傾向値から装備率の上昇を想定すること。 引取時預託の平成17年度実績が当初想定を下回る装備率で推移していること。
フロン類	93%	82%	95%	以下を考慮して平成18年度の装備率を設定。 継続検査時等預託・引取時預託の台数が減少することに伴い装備率が比較的高い新車時預託の比率が高まること。 継続検査時等預託について、平成17年度実績は当初想定を下回る装備率で推移していたが、平成18年度においては 最近の傾向値から装備率の上昇を想定すること。 引取時預託の平成17年度実績が当初想定を下回る装備率で推移していること。

事業活動支出：再資源化等預託金払渡支出

平均単価

	平成17年度 予算	平成17年度 (4月～2月) 実績	平成18年度 予算	平成18年度予算における平均単価の設定について
A S R	約6,000円	5,854円	約5,900円	平成17年度実績が当初想定を下回る平均単価で推移していることから、平成17年度実績の傾向値から平成18年度の平均単価を設定。
エアバッグ類	約2,000円	1,846円	約1,900円	
フロン類	約2,100円	2,091円	約2,100円	

事業活動支出：再資源化預託金等輸出返還支出

平均単価

	平成17年度 予算	平成17年度 (7月～1月) 実績	平成18年度 予算	平成18年度予算における平均単価の設定について
A S R	約6,300円	6,754円	約6,800円	平成17年度実績の傾向値から平成18年度の平均単価を設定。
エアバッグ類	約2,100円	-	約2,300円	平成17年度の輸出返還台数の実績のうち、エアバッグ類及びフロン類の装備台数が不明であることから、平均単価の実績が不明。よって、平成18年度予算の再資源化等預託金預り収入における平均単価と同じ値を平成18年度予算の平均単価として設定。
フロン類	約2,100円	-	約2,100円	